

# 無量光院跡舞台内覧会資料

令和8年3月28日 午前11時～ 平泉文化遺産センター

## 1 舞台の発見

舞台は平成22年の発掘調査において、中島東端から発見されました。総柱で規模は5.9m四方の正方形をしています。阿弥陀堂(本堂)の正面かつ中軸線上に位置しています。柱の建て方は一律でなく、島に一番近い西端の列は掘り込み、それ以外は打ち込んで柱を建てていました。柱の樹種はクリでした。

舞台は文献史料(『中右記』元永元年閏九月廿二日条)などに儀式・法要時に舞台を池中に設置した記録があるものの、実際に浄土庭園から遺構として見つかった例は無く重要な発見です。



無量光院跡全体図(赤枠が舞台の位置)



見つかった舞台遺構



無量光院阿弥陀堂と舞台の復元CG  
復元考証: 京都大学大学院教授 富島義幸  
CG作成: 共同研究者 竹川浩平

## 2 舞台を復元する

見つかった舞台遺構は、無量光院跡の庭園を構成する重要な要素であることから、庭園がもつ鑑賞上の価値を可視化(見える化)すること、史跡を訪れる方々の理解促進を図ることを目的に、見つかった場所と同一箇所に復元整備することになりました。

今回の整備では、舞台の上部構造が不明であったことから、舞台の場としての再現を優先し、景観に配慮したデザイン・色調で設計しました。

令和6年度に材料購入と防腐処理を行い、令和7年度に舞台の設置工事を行いました。



防腐処理の様子(奥の窯で薬剤を浸透させる)

## 設置工事の様子



①基礎を据えるための掘削開始



②基礎を設置する16か所の穴を掘る



③70cm四方のコンクリートブロックを設置



④設置完了



⑤搬入した材料を組み立てる



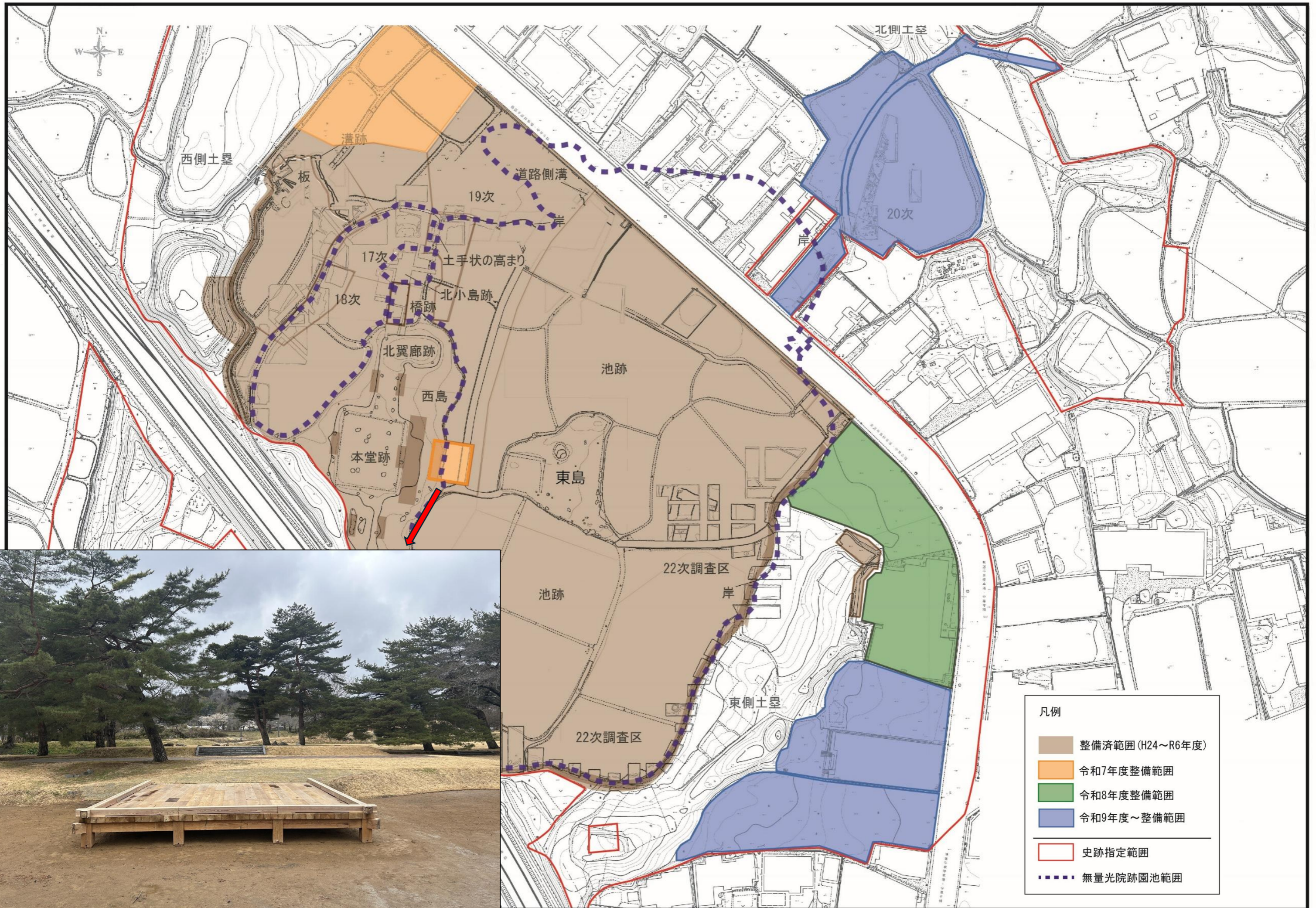
⑥床板を張る(厚さ12.5cmの栗材)



⑦床板張り完了



⑧舞台完成



凡例

<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #c08060; border: 1px solid black;"></span>	整備済範囲 (H24~R6年度)
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #ff9933; border: 1px solid black;"></span>	令和7年度整備範囲
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #4CAF50; border: 1px solid black;"></span>	令和8年度整備範囲
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #4169E1; border: 1px solid black;"></span>	令和9年度~整備範囲
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; border: 2px solid red;"></span>	史跡指定範囲
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; border-bottom: 2px dashed blue;"></span>	無量光院跡園池範囲